

平成27年度第2回 花巻市総合教育会議 議事録

1 開催日時

開会 平成27年11月4日(水) 午後1時35分

閉会 平成27年11月4日(水) 午後3時14分

2 開催場所

花巻市役所本庁舎3階 委員会室

3 出席構成員

花巻市長 上田 東一
花巻市教育委員会 照井 善耕(教育委員長)
花巻市教育委員会 中村 弘樹(教育委員)
花巻市教育委員会 役重眞喜子(教育委員)
花巻市教育委員会 伊藤 明子(教育委員)
花巻市教育委員会 佐藤 勝(教育長)

4 説明等のため出席した職員及び事務局

教育部長 市村 律
教育企画課長 岩間 裕子
小中学校課長 菅野 広紀
教育企画課長補佐 鈴木 和志
教育企画課上席主任 佐々木 晶子

5 議題

- 報告事項 (1) 第2期花巻市教育振興基本計画の策定状況について
(2) 全国学力・学習状況調査の結果について
(3) 花巻市のいじめ状況について
(4) 平成27年度岩手県中学校新人大会(前期)の結果について

6 議事

(1) 開会

○市村律教育部長 ただいまから平成27年度第1回花巻市総合教育会議を開会いたします。はじめに総合教育会議の主宰者であります上田市長からご挨拶をお願いいたします。

(2) あいさつ

○上田東一市長 教育委員の皆様には花巻市の子供のため教育について色々ご尽力いただいております。大変感謝申し上げます。教育委員会の会議につきましては私も議事録に目

を通させていただきまして、大変活発に子供達のためにご意見を頂戴しているということ
で認識させていただいております。このような教育委員会の活動に対しては大変敬意をも
って見させていただいているところでございます。

今日は2回目の総合教育会議ということで、教育委員の皆様と市長の方の忌憚のない意
見交換をさせていただけるということで大変期待して参加させていただいているところで
ございます。今日は非常に重要な事項についての話し合いが予定されているということ
でございますので、ぜひ皆様の活発なご意見の交換をお願い申し上げたいという風に思う次
第でございます。よろしくお願いいたします。

市村律教育部長 ありがとうございます。続きまして教育委員会を代表して照井教育委員
長からご挨拶をお願いいたします。

○照井善耕委員長 市長さんには日頃から教育について大変力を入れていただきましてあ
りがとうございます。

6月の第1回の総合教育会議以来、私ども委員も小学校あるいは中学校の体育連盟の行
事、各地区の行事、学校行事も含めて、スポーツ活動、文化活動、色々な地域での活動等
できるだけ足を運んで私達自身が実感できるような形で子供達を見つめて参りました。ま
た、先生方と膝を交えて話し合う機会もありまして、学校が本当に今向かっているところ、
あるいは困っているところ、あるいは市に求めているところ等々含めて色々とお話して参
りました。本当に花巻の子供達は色々な大人の方々に見守られながら一生懸命頑張ってい
るなという風に思います。私達が施策を進めていく場合も、できれば一人一人の子供達の
表情まで思い浮かべながら、子供達の成長の糧になる関わり方を模索していく必要がある
と、毎回子供達とかかわるたびに実感しております。

それから事務局でまとめているアンケート等にも目を通してみますと、もちろん子供達
を中心に据えて頑張っているわけなのですが、保護者の方々とか地域の方々も必ず
しも今の自分のかかわり方、あるいは地域の中での皆さん方とのかかわり方に満足してい
るわけではないようですし、我々はお互い関係の中で、それぞれが一生懸命生き、子供と
共に大人も体験を踏まえながら成長していくのを感じさせられます。そういう意味で、教
育となるとどちらかという子供のこととなりますけれども、子供を伸ばすために大人同
士がどう関わるかという辺りも必要だなということも思っております。

今日の会、是非、委員も意見を出しながら、市長さんからもお話いただきながら意義の
ある会議にしたいと思っております。よろしくお願いいたします。

(3) 報告事項 第2期花巻市教育振興基本計画の策定状況について

○市村律教育部長 ありがとうございます。それでは次第の3、報告事項に入りたいと思
います。ここからは花巻市総合教育会議運営要領第3条第2項の規定によりまして、上田
市長に議長をお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

○上田東一市長 暫時、議長を務めさせていただきますのでよろしくお願いいたします。
それでは（１）第２期花巻市教育振興基本計画の策定状況についての報告に入ります。
事務局より説明をお願いいたします。

○岩間裕子教育企画課長 教育企画課長の岩間です。よろしくお願いいたします。第２期花巻市教育振興基本計画に関するご報告をさせていただきますが、お手元の資料を確認いただきたいと思います。

この報告事項に関する資料につきましてはNo.1－1からNo.1－6までとなっておりますので、ご確認をお願いいたします。それでは第２期花巻市教育振興基本計画の策定状況についてご報告いたします。

本計画につきましては、６月２２日に開催いたしました第１回総合教育会議におきまして、策定する計画の骨子をもって教育大綱とすること、また、策定にあたっては可能な限り市民の声を計画に反映させること、また、総合教育会議に中間報告を行うことの申し合わせがあったところでございます。

このうち、市民の声の反映につきましては、教育振興審議会を本年度２回開催しております。ご意見をいただいておりますほか、市PTA連合会の理事会構成員の皆様へのアンケート調査の実施、１０月４日開催の子育て講演会参加者へのアンケート、１０月６日開催の学校保健・安全・給食研究大会における参加者へのアンケート等を実施しております。

資料No.が前後いたしますが、初めにアンケートの結果等についてのご説明をさせていただきます。

資料No.1－3をご覧ください。こちらにつきましては、審議会の意見をまとめたものでございます。簡単に内容を申し上げますと、まず、勤労意欲を醸成する必要性についての意見が出されております。そのほか、支援学級に在籍する生徒の中学校卒業後の進路についての支援の必要性、それから家庭教育の重要性や社会教育の必要性についての意見、いじめへのきめ細やかな対応、学力向上等についてご意見をいただいたところでございます。

また、資料No.1－4から1－6のアンケートについてでございます。市民の皆様が教育について日頃感じている不安は何か、普段どんな大人になって欲しいと考え、どんなことに気を付けて子育てをしているか、学校や地域に期待することについてを調査項目として実施いたしました。このアンケートの調査結果の概要をまとめてご報告させていただきます。

初めに、教育について不安を感じていることについては大きく４項目ございました。１つ目が家庭の教育に対する不安でございます。内容といたしましてはコミュニケーションや人とのかわり方、叱り方、注意できない、注意すると一方的になってしまうといったジレンマ、それから躰をどうしたらいいのか分からない、あとは子供が我慢できない、子供に我慢させられないといった悩み、これから反抗期を迎える子供に対してそれに対応する自信がないといったような声が挙げられておりました。また、２つ目としては情報機器等に対する不安がございました。インターネットやスマホとの付き合い方が分からないと

いったご意見ですとか、ゲームに夢中になっている子供について、時間を制限できないといったようなジレンマを抱えているようでございます。3つ目が経済格差への不安でございました。習い事をさせられない、学校の授業だけでは受験は難しいと思うが塾には行かせられないというようなこと、それから収入格差と学力の関係がマスコミ等で報道されているけれどもこれが不安だというようなご意見がございました。4つ目が部活動に対する不安でございます。厳しすぎるということ、休日にも活動があり休めなくて子供が疲れている、睡眠時間が減っている、翌日まで疲れを引きずっている、勉強しなくなったといったご意見と、部活動が勝利至上主義になっているのが懸念されるというご意見がございました。

次に、学校・地域に関することといたしまして、学校に期待することは、第一が学力向上、2つ目がいじめへの対応、3つ目については少数意見でしたけれども、土曜授業の実施について検討して欲しいという意見もございました。一方、学校への不満といたしましては、学校間の学力差への懸念、宿題が多すぎるということ、教員の能力差があるのではないかとということ、それから、先生と子供、先生と保護者、学校と地域、これらのコミュニケーションの不足を指摘する声がございました。地域への期待といたしましては、子供が悪いことをしていたら注意してほしいということ、様々な経験や体験をする場を提供してほしいというご意見、それから教育振興運動の充実を期待するという声もございました。

それから、目指す子供の姿ということでの項目につきましては、子育てで大切にしていることは何かということについては、家族や自然や周囲の人々とのふれあいということ、それから基本的な生活習慣を身に着けさせるということ、挨拶や笑顔や助け合いという言葉も出て参りました。それから、大好きだよと伝える努力、同じ時間を一緒に過ごす、良いところを褒める、毎日一緒に笑うという回答がございました。また、どんな大人になってほしいかという問いに対しましては自分を大切にする、人のために考える、自分を表現できる、協調性がある、命を大切にする、困難を乗り越えられるということ、また、単語として出ましたものとして自立、信頼、責任感、誠実、貢献といった言葉が挙げられております。教育についての不安や地域への期待ということで、このアンケートをまとめてみましたところ、これまで教育委員会として様々な場で認識してきたこととの大きな違いはなかったように感じたところでございます。

今後、このアンケート結果も精査いたしまして現在策定中の計画へ反映していくことを検討して参りたいと思っております。

次に、計画本体についてご報告いたします。現在、関係課の課長をメンバーとする検討会議において、第1章から第3章の策定を行い、現在、課長補佐をメンバーとする作業部会において第4章の策定を進めているところでございます。

今回お示しいたしました資料No.1-2でございしますが、現時点で検討している内容でございまして、今後、先程ご説明いたしましたアンケート結果のほか総合教育会議でのご意見、今後予定しております校長会との意見交換を通じまして更に精査して参りたいと考えております。

資料No.1-2の概要を資料No.1-1にまとめておりますので、資料No.1-1をご覧ください

だきたいと思います。本計画は第1章から第6章までと資料編で構成すること現在考えております。

第1章は「計画の策定にあたって」といたしまして、趣旨、位置づけ、期間、手法について記述いたします。計画期間につきましては、国の教育改革の動きが激しいこと、また、市のまちづくり総合計画の第3期中期プラン（H32～35）の策定期間との関係から、H28～32までの5年間としているところであります。

第2章につきましては「本計画の基本目標と基本方針」で、目指す市の姿、政策分野、政策別に目指す市の姿を記述いたします。この部分につきましては、本計画の骨子が市の教育大綱となることを受けまして、市の総合計画を基本として策定することとして進めております。

第3章は「本市の教育をめぐる現状と課題」で、本市教育の特長と現状と課題、教育改革の動向、東日本大震災について記述しております。このうち現状と課題につきましては、社会的な要素、就学前期、義務教育期、生涯学習、スポーツ、芸術文化を項目として設定しております。

第4章は「基本方針の実現に向けた取り組み」でございます。「子育て環境の充実」「学校教育の充実」「生涯学習の推進」「スポーツの振興」「芸術文化の振興」の4項目で構成いたします。内容について、特徴的な部分についてご説明いたします。

1項目目の「子育て環境の充実」につきましては、「子ども・子育て支援法」の施行に伴いまして、現計画に比べて、子育て支援、家庭教育支援に関する記述が大幅に増加しております。また、2項目目の「学校教育の充実」では、最重要課題として掲げております「学力向上」のほか、いじめ問題についての記述を増やしているという状況でございます。また、この2つの項目につきましては、特に「家庭」との連携が必要であると捉える内容が増えておりまして、保育園・幼稚園の保護者や市PTA連合会との協力体制の構築が重要になるところと捉えております。

次に、第5章は「市民とともに歩む教育行政改革への取り組み」といたしまして、教育委員会の機能強化と情報発信機能の強化についてを記載いたします。

また、第6章は「計画の進行管理」として、実施計画の策定と進行管理・評価について記載することを考えております。

以上、簡単ではございますが、教育振興基本計画の策定状況についての報告となりますので、よろしく願いいたします。

○上田東一市長 非常に効率的なご説明でついていけたかどうか少し疑問ありますけれども、第2期花巻市教育振興基本計画について皆様からご質問ご意見ありましたら伺わせていただきたいと思います。

次にも関係します、学力・学習状況調査の結果についての話になりますけれども、少し先走って申し上げますと、花巻市の小学生、中学生の学力でございますけれども、小学生は高いということだと思います。中学生が県の平均よりも低いということは非常に驚いている。やはり都市部の方が相対的に高いという印象を私共は持っていたのですが、

そういうことからすると、花巻市は県内の中で平均よりは良いだろうという風に感じたわけですが、実は違うんだという報告がこの後あると理解しております。それについて、この基本計画なんですけれども、まず原因が何なのかということが無いといけないんだと思うんですね。先程、原因についてそれらしいことを触れておられましたけれどもその具体的な分析がないと、この基本計画の中身が決まって来ないんじゃないかなという気がするので、分析をしたうえで、これをどうやって解決していく必要があるのかということをしちっと踏まえて、それを文章化していくことが更に必要になるんじゃないかと。この中に書いてありますけれども、もう少し踏み込んだ内容があってもいいんじゃないかという気が私はします。

それから細かい点になりますけれども4ページ目の本市教育の特長の中で、「本市は江戸時代に、花巻城下に「揆奮場」が開設され「文武両道」の精神のもと」とありますが、そのとおりでと思うんですね。ただ揆奮場ができたのは、私が理解しているところだと、確か1860年代、本当に幕末の直前な訳ですね。その中で佐藤昌介が揆奮場で勉強をして確かに世界に羽ばたいた訳ですけれども、花巻の学問の歴史というのは揆奮場から始まっている訳ではなくて、むしろ花巻郷学の時代が長くてですね、そこから始まっているんだと思うんですね。そうすると揆奮場から始まったような記載というのは誤解を招くんじゃないでしょうかという気が私はいたします。その点は少し考えた方がいいんじゃないでしょうか。

それから奨学金の制度につきましては、基本計画の中では多分この程度の記載だと思いますけれども、今現在、私の理解しているところだと、奨学金は返済額の方が新たに貸与している金額よりも多いという状況になっていて、しかも奨学金の寄付自体はまだ続いているという状況があるわけです。そうするとこの奨学金をさらにもっと必要性のあるところに使っていくということについては今、検討いただいているはずでございますけれども、ぜひお願いしたいのと、場合によっては、例えば花巻で特に必要な職業、看護師さんとかですね、そういう方達の勉強の場面について奨学金を貸与して、それを利用しながら卒業した場合は花巻で働いていただくというような仕組みを考えてもいいのではないかと、いう風に思いますので、ぜひご検討いただきたいと思います。

皆さんいつも教育委員会でお話しをされているので、新たには無いのかもしれませんが、ぜひご質問ご意見をお願いいたします。

○役重眞喜子委員 2点お話したいと思います。1点目は、市長がおっしゃった中学校の学力について、これは先程事務局からも言われた、部活動が大きく影響していると思ひまして、ただ、それに加えて小中を見通した教育という意識を先生方に持っていただくということがすごく大事だと思ひていて、おそらく小学校は平均より高かったということで、小学校の校長先生方は良かったなと安心してしまひ。でも、そうではなくて逆に中学校に行つて伸びる6年生を送り出してやれなかつたというところに意識を向けていただひたい。そういうところが、今、小中連携というところがもう一歩進んで、小学校のプログラムを、小規模校も多いわけですからきめ細かいというのはいいのですが、きめ細かいだけでは中

学校に行って伸びない。そこのところを指導の中でどういう風に生かしていくかということのを改めて考える必要があるのかなというのが一つです。

それから、教育大綱に振興基本計画の骨子を反映させていくということはそのとおりに思っているのですが、この間の教育委員会議の時も話題になったんですけど、柱となる、本市の教育の目指すところというのはどうなんだと。このように、教育委員会として決める基本計画はまんべんなくどれもこれも柱としてたてて並べて見せるということがそれはそれで大事なんですが、首長が定める教育大綱となった時に、もう少し花巻の学びとは何なんだということを出していく必要があるのではないかなと感じています。

挨拶で委員長が申し上げたように地域の力、大人の学びというところが非常に大きい。花巻の特長はやっぱり地域の力だろうと思います。なので、具体的に何かといった時に、私が今念頭にあるのは、郷土芸能ですね。花巻市はどこ地域に行っても郷土芸能ですね。大人と子供が地域でかかわる体制があるということは他の地域にはない特長ですね。これをひとつ打ち出していくと。それからもうひとつ、農業、食育というところで子供達が地域と関わりながら農業と食育は深いところでつながっていますのでそういった部分を伸ばしていくと。書くか書かないかは別としてももう少し練っていった方が良いでしょう。

○上田東一市長 今はそのとおりだと思うんですけど、教育振興基本計画といった場合、生涯教育の面も当然カバーしていますね。生涯教育の部分は本来教育委員会の仕事ではないんですが、ただ、花巻市の場合には、その部分については本来市長部局のものを教育委員会にお願いしているということだと思うんですね。そういう中で基本計画には本来の教育委員会の仕事じゃない生涯教育の部分も入ってくるというのは、それはそれで理解できるんです。ですから今おっしゃった部分について、その分で入ってくるのは考えられるし考える必要があると思いますけれども、一方で学校教育の場面において、あまりにも色々なことを学校教育あるいは先生にお願いするということを基本計画の中に定めた場合に、先生方がパンクしてしまう危険性もあるわけで、そこは少し考えて、どこまでこの基本計画の中で、あるいは学校教育に期待するという部分で入れていくかというのを慎重に考えていく必要があるのではないかと私は思います。

○役重眞喜子委員 そういう意味では、学校教育に寄りすぎている。その部分をもう少し、地域とか社会に戻していただくという部分で、その一つの部分として農業とか郷土芸能とか、そういうかかわりがあるのではないかなと。

○上田東一市長 はい、どうぞ。

○伊藤明子委員 前に市長さんがお集まりの時に正規雇用ということをお話していらっしやいますが、私もそのとおりだと思っているんですね。先ほどのアンケートの中にも、極端な言い方をすれば貧富の差という話が出てくるのですが、親の生活の基盤というのが随分子供さんに影響しているんだなということアンケート結果で分かったことなわけです。

れども、ここのところで教育委員会というより市長さん方の力で正規雇用ということをしていただくと、子供達も経済のうえに成り立つ精神ということもありますので、いつもおっしゃっているのは聞いておりますけれども、そこの辺りをもう少し推進していただければもっと違った意味で子供達が育つのではないかと考えておりますし、そうすることによって1人しか子供がいないけれど、2人とか3人とか増えてくることもあると思いますので、そこのところをやっていただければなと思います。

○上田東一市長 非常に重要なご指摘だと思います。私共もこれについては色々な場面で考えて、花巻市の正規雇用対策については今後とも頑張っていきたいと思います。

○中村弘樹委員 この間、中学校の懇談会で、言葉を良くすれば元気ということなのですが、ちょっと外れているという中学生がどこから来るかといった時に、小学校からそのまま上がってくると。そして、小学校に言うと保育園からそのまま上がって来ているんだと。

擦り付け合いという訳ではないのですが、関連性が出てきた時にアンケートにもあるように躰の問題ですね。保育園の時の躰ができていないまま、家庭での躰もできていないままになってしまう。家庭で躰ができていないことをカバーできるのが保育園だと思うんですね。そこに重点的に目を向けますと、先の学力向上まで繋がってくるのかなと思って。

その時に学校の先生と同じように保育園の先生もいっぱいいっぱいになっていると思われるので、その辺りの充実した支援、そちらの方まで目を向けていただければと思っていますのですが。

○上田東一市長 おっしゃるとおりなんだろうと思うんですよね。3つ子の魂という話もあるから。そのうえでの話で保育園というのは本来教育の施設じゃないわけですよね。どこまで保育園にお願いしていくかという話ですし、それから今の保育園の保母さんの配属とか、そういうことはそういう教育をするというのを想定しての配属ではない。だから、その中で保育園にどこまで頼めるかなというのが私自身もよく分からないのですけれども。どうですか、今、保育園でどこまで躰とか教育をお願いできるのかという、マンパワーも含めて体制が出来上がっているのかというところを。

○市村律教育部長 保育園の保育士だけではできないということで、ニコニコチャレンジとか、何年前前から生活習慣について「早起きしていますか」とか各園でテーマを設けて保護者と一緒に行っています。園に来る前の段階で、朝も寝坊するとか、ごはんを食べないとか、歯磨きというになると家庭の部分もありますので、ニコニコチャレンジでやっている部分はありますが、そういうものでないと単に保育士だけのマンパワーでは厳しいところもあります。

○上田東一市長 法人立保育園によってはそういうしっかりした自分達の教育方針を持ってやっているところもありますよね。だけど、全部が全部そういうことではもちろんなく

て、それがおかしいじゃないかとは言いにくいということですよ。

○市村律教育部長　そうですね。それぞれの法人の方針、建学の。

○上田東一市長　それだけの支援をしている。そこまでの支援はしていないということじゃないかなと思うんですけれども。どこまでやれるのかということ。大事な話ですよ。

○佐藤勝教育長　その背景についてご説明しますと、花巻の保育園の場合は半分以上が法人さんということで、以前は、法人、公立という形で全く別々にやっていたのが十数年前から、保幼小の連携ということで一緒に課題を整理したり、研究発表をする、そういう環境になってきております。

その中で今求められているのが、例えば、アプローチカリキュラム、卒園時までこういうことをできるようになりましょう。それから、入園して小学校に入るまでのスタートカリキュラム。こういったことを試行錯誤しながらライフスキルとかソーシャルスキルを共通化して一緒に協議するようになった。

ただ一方で家庭教育との連携が必要だということで、ニコニコチャレンジとかニコニコ先生体験とか色々やっている訳ですが、更にこれは強化していかなければならないのですけれども、もうひとつ忘れてはいけないのは、おっしゃったように地域の中の保育園ということで、地域の教育力をもっと導入していかなければならないというのがひとつですね。それから意外と見落としていたのが、その先、小学校に入った時にどういう学習課程で帰結させていくか、力をつけさせていくかとなった時に案外小学校1年生2年生にある教科の中で生活科、その生活科との関連をもう少し吟味していくと親御さんも学校の先生も保育士さん達もやはり、ここまで一貫するとか、発達過程を取るうえで分析しながら整理していかなければならないと、今そういった意識で取り組んでいるところでございます。

確かに新しい制度に入った時のニーズ調査の中では躰、健康、そういったことが一番の課題となり得るということでしたので、もう少し整理しながらやっていきたいと。

○上田東一市長　その中で、教育委員会がどこまで指導力を発揮できるのか。あるいはすべきなのかということありますよね。教育長さんがおっしゃった部分であれば、例えば研修会とかそういう所で話すというのは当然できることでやっていただく必要があると思いますが、それとは別に教育委員会としてこう考えると、各保育園ではここまでやって下さいとか言えるものなのかですね。

○佐藤勝教育長　そうですね、学校とは違って、保育士さんの場合には、先生方で研究とか開発、保育比較専門というゆとりがないのは確かです。ただ、幸い花巻の教育委員会では0歳から15歳まで持たせていただいているので、やっぱり教育委員会から発信はどんどんしていくということで、あとは試行錯誤しながら、その都度評価しながら進めていく

しか方法はない。

○上田東一市長 今、保育園、幼稚園、小学校の先生方の研修会ありますよね。今おっしゃったことについて摺合せをするとともに教育委員会で出来る範囲で発信していただく。あまりそこまで言われる筋合いはないと言われたいようなことを考えつつ、やっていただくということなんですかね。

○役重眞喜子委員 市長さんのご心配は分かるんですけども、実際には保育園は法人にしても公立にしても、現場の先生方はやっぱり子供を良くしたい、ただただ預かるだけじゃなくて小学校に上げたときに躰だってしてあげたいし、ぼぼ共通認識の中でなさっていると思うんです。ただ、やっぱりですねマンパワーということをお願いしましたけれども親との信頼関係、親の家庭教育力がどうしても落ちていきますから、そこ信頼関係を繋いで親と情緒的な面でも交流しながら子供を一緒に持ち上げていくという、そういうことでおそらく苦労している。中村さんがおっしゃった支援ということは、そのマンパワー。親から話を聞けば、やっぱり保育士さん達も忙しくて臨時だったりもするし、お便り帳も1週間に一遍ぐらいしか書いてくれないとかそういうところで信頼関係ができていないということもあります。

教育上は指導項目をどうするかということもありますけれども、それ以上に体制の充実というところで市なり教育委員会なりの努力が必要なのかなと。

○上田東一市長 その点に関しては今教育委員会で検討しているんですかね。

○佐藤勝教育長 公立については保育の質を上げようと、今どうしてもシフトで大変だとか、臨時の先生にお願いする部分がだいぶ多いとかそこはできるだけ緩和していこうという風なことでやっています。

あと、もう一つは小学校中学校ですとPTAという組織があって共通化して皆で考えたり、あるいは一緒に勉強したりとかあるのですが、保育園の場合は保護者会というそれぞれの立場ですので、そこを強引に連結させるというよりはもっともっと教育委員会であろうと思いますが、情報発信をしていくということが大事だと思っております。あるいは相談体制をいかにして構築していくか。

○照井善耕委員長 ニコニコチャレンジですね、すごく良いなと思っていて、何が良いかというニコニコっていうのがね、親も先生方も一生懸命になって、こういうことができるようにしたいと一生懸命なんだけど、大人が一生懸命になればなるほど子供達がついていけないというか、大人のペースでものを進めすぎると子供達が逆に引いてしまう感じになって、だからその時に何が必要かという大人の側のゆとりが必要かなと。それが多分ニコニコという言葉に表されているんだろうなと思うんですね。

先程、三つ子の魂百までという話がありましたけれども、今、子供達に一番必要なの

は、自分がまだ独り立ちできない不安な時期というか、色んなことにぶつかりながら不安を感じている、その不安を感じた時に見守る存在があるかどうか。大変だとなったときに拠り所になる部分があるかという。一番は家庭だと思うんですね。経済的にも時間的にもゆとりを持った大人が、そういう子供達に少し懐を広げてというか深くして、そうすると子供は当然不安な部分にいっぱいぶつかるけれども、不安にぶつかった時に見守る人がいてクリアしていく。その積み重ねがまさに三つ子の魂で、3歳までにできるとその後の色んな大きい障害にも帰るところがもう出来ているから安心して探っていけると言われているんですね。そこが、我々が子供だけじゃなくてお父さんお母さん方、あるいは家庭も同時に支えながら行かないとなかなか躰というところまでは行けないんじゃないかな。

躰が成り立つかどうかは、失敗しても何かあっても帰る、拠り所がある時に初めて躰というのが身についていくのではないかと。そうでないとただの強迫観念というか、周りからの悪い意味での刺激となって躰の問題が後々まで尾を引く、小学校の場合はいいんですけど、思春期にぶつかったときに今まで一見素直だった子ががらっとひっくり返る。

私は教育委員会が0歳からみるようになったというのは良いなど。良いというのは、保護者の方にも方針を示しながら、そんなに一生懸命になり過ぎなくてもいいんだよ、むしろやりながら、なお且つお任せしてもいいなとか一緒にやっていけば間違いないんじゃないかなとかそういう心持で親が子育てに関われるようにやるということが大事なんじゃないかなという感じがします。

○上田東一市長 なるほど。そういうことからすると、保育園、小学校と分けるわけにはいかないということですね。

○照井善耕委員長 大人のシステムでは分けれても、ただ、小学生になってもまだ2歳、3歳の情緒的な不安とかを持っている子供も今むしろ多いんじゃないかな。小学生が落ち着きが無くなったというのは結局そこに起因しているんじゃないかな。

さっき、小学校は幼稚園から、中学校に行くと小学校からという話があったけど、遡って突き詰めると、目の前に来た子供が何を欲しているかという時点で対応を考えていかないと。小学校なら小学校の対応を。保育園、幼稚園のことを踏まえて新しい対応をしなければならない。そういう意味ではマンパワーととにかく家庭が安定しなければならないので、どうしたら家庭がゆとりを持って子育てに向き合えるのかとなるとやはり地域との関係が出てきます。総合的に見ていかないとなかなかうまくいかないんじゃないかな。

○上田東一市長 分かりました。ありがとうございます。

○伊藤明子委員 ひとつの事から随分といっぱいになって、全部つながっているという感じですね。正規雇用のこととか、色んなこととかっていう事をやっていただくとまた、そして地域のつながりといっても、自分の家のこともついていけないのに地域とのつながり、よその子供さんまで出来ないかもしれないので、やっぱり色んなことを考えながら私

達も反省しながらやっていかないといけないんだなという事をこの会議で感じました。

○照井善耕委員長 部活の問題ですけれども、確かに勝利至上主義があるんだけど、授業とか他の学校教育の活動と同じように部活もこの活動を通してどういうことを育てたいのかということ、みんなが理解して、この部分は部活に本気になって取り組んでもらわなければいけないとか、この部分を地域との活動の中で育てられるんじゃないとか、育てるという意識を持っていけば、1人には24時間しかないわけだから、その中の部活でどの部分を賄うかという発想をしていけば、ただただ練習に3時間も4時間も、伸び盛りの子供を追い込むということは無いんだと思うんですよね。

○上田東一市長 ただそれは今は分かりませんが、私、中学校の時は野球部で、我々の頃は強かったんですよ。多分平日は4時間は練習していましたし、土日は6時間とか練習していましたよ。だから、結果的には自分自身には良かったと思いますけれども、それが全員にとって良いかどうかというのは、それは別の問題じゃないかなという気はしますね。たまたま何とかなったけれども、その結果、勉強する時間が減って本来持っている力を伸ばせないということが、もしあるとすればそこは考えなくてはいけない問題というのはあるような気がしますね。

○照井善耕委員長 限られた中で何を残して何を削っていくかの部分もあると思うんです。私も実は教員になったのは部活をやりたくてだったのですが、部活部活で。

○上田東一市長 やっぱり勝たせたいですか。

○照井善耕委員長 勝たせたいというよりは納得したいというか。まあ吹奏楽は勝った負けたは周りが付けるのであれですけども。子供達自身がその活動自体に何かやって良かったとか、今充実しているとか思いを持ってない活動であればどうしようもないなど。部活をやったから私は勉強ができないというのはまずないと思うんです。基本的に。周りがそうさせているだけで。

○伊藤明子委員 それは出来る方と出来ない方との違いもあると思いますよ。

○照井善耕委員長 出来ない子が部活を辞めればできるか。今度は時間を持て余して別の方向に向いてしまう。

○上田東一市長 バランスの問題なのかなと。例えば、私は中学校の時に土日6時間から7時間練習した部活は自分の身になっていると思うんです。体力的な部分でもね。その運動はしなくなったけれどもどこか体に残っているような気がするんですね。だから、それは非常に良かったと思います。ただ、それが3時間ではだめだったのかというと全く別の

話であって、そこは色々な考え方があるような気がします。

○佐藤勝教育長 部活が攻撃の対象になっていて、じゃあ部活を少なくして時間的ゆとりを作ったら、それは確かに勉強時間が増えれば学力があがるかもしれない。ただ、少なくとも花巻の子供達は部活の成果が非常に大きいとありますが、見方では生徒指導上、核家族の中で生活体験が少ない子が中学生になると異年齢の子供達と大きな集団の中で汗をかいて切磋琢磨すると、これは人間性を作る意味では非常に私は有効かと思います。

ただ、いわゆる部活と言っているものの中にスポ少が入っていたり、お父さんお母さんが主催する練習が入っていたり、そこのけじめというのでしょうか、そこのところが全く整理されていないということがあればひとつ問題でしょうし、もうひとつは部活をやって家に帰った後でそこからテレビを見て、ゲームをして、スマホで遊ぶと。そういうサイクルになっているとすれば、決してこれは部活だけの問題ではないと。

トータルな形で部活の在り方とか検証をきちっとやっていかないと、単純に部活時間を減らせばいいのかというと、そうではなくて子供達にとって自立性とゆとりを持たせていかないと人間的にはかなり子供達も苦しいんだろうなと思いますね。

○伊藤明子委員 部活の友達ってずっと友達だったりしますもんね。

○役重眞喜子委員 部活の問題というのは教育長がおっしゃったように時間の問題ではなくて、体制の問題だと思っていて現実と建前の乖離が非常に激しい。

例えば、学校では部活は4時半までとなっているんだけど実際帰ってくるのは夜の10時だったりしている訳です。そこにはスポ少というものがあって、学校ではスポ少は地域活動だから関係無いと言いながら、現実には部活はスポ少におんぶにだっこだという色々な齟齬がある中で、子供達がそこにすぽっと嵌まって落ち込んでしまうという現実があるので。時間がどうというよりは、そこをどういうふうに学校で整理していくのかということだと思います。

○上田東一市長 私等の時代は7時半まで練習したんですね。暗くなってからも練習していて。スポ少って無かったんです。だから逆に言うと先生がその時間まで残っていたんですね。これはやはり出来ない。お願いすべきじゃないですし、そういうことは不可能であって、そうすると4時半だったり5時になったら帰らなくちゃいけないというのは、それはしょうがないとは思いますが。そのうえで強くなろうとしたらスポーツ少年団というものも出てくるような気はするので、なかなか簡単にこうすれば良いという答えが出る問題じゃないような気がしますけどもね。

○役重眞喜子委員 簡単に出ないので、やっぱり顔を突き合わせて話をしなきゃいけないんですね。学校と指導者が。そこが今できていない。

○照井善耕委員長　でも手段だと思う。子育てをどうするかというレベルでの話し合う機会があった方がいいとかね。ひとりの子供をどう育てるか。8時間も部活でどうなのか。この子は大丈夫だという場合もあるしね。2時間3時間でも食欲も無い位になるとか色々あるでしょうからそこを、きちっと子供を見ながら相談しあうことが必要になるかと思えます。

○伊藤明子委員　先ほど役重さんが、学校と指導者で話した方が良いとおっしゃった、ひとつの一例として、ある学校で学校の中を傷つけたということがありましたよね。そういうことがスポ少の指導者の方のグループがやっちゃったことなので、なかなかと言ったけれど学校でもあまりにもひどい傷つけ方だから賠償金をとろうという話があったように思うので、そこはおっしゃるように話し合いが必要だろうなど。そういうことがたまたま私達の目に触れたから分かったけれど全然私達が行かないところでそういう風なことがあるかもしれないし、その人達が中心になって他を阻害していることもあるかもしれないし、色々、学校と指導者の話し合いが必要だろうなどと思いますね。大分苦戦していましたよね。あの時校長先生が。

○上田東一市長　それを踏まえたうえで、教育委員会として学校の先生方にどういう風なメッセージを出したのですか。なかなか簡単じゃないような気がしますけれども。

○佐藤勝教育長　結局、学力向上の課題からすると、いくつか原因があるだろうなどいうことで考えていますけれども、やはり一番大きいのは、花巻の場合、部活が確かに盛んなんですね。すごく良いのですが、ただ80年代からやってきていることについての評価とかあるいはチェックが不十分なままでここまで肥大してきているのがひとつ挙げられることだと思います。

そういったことで次期の学習指導要領の中心となっていますが、カリキュラムマネジメントと申しますか、学校なり教育での活動自体について限られた時間とか物理的な関係がありますから、しっかり各学校でもやらなければいけないし、市内で共通化していかないと、なかなか肥大して行って先生方は忙しい忙しいと。それは当たり前なんですけれども、焦点化するもの。今何が大事で、今月はこういうことに力を入れる。この子にはこういう力を皆でつけてあげたいとか、そういった重点化がなかなかできないんだという風に思います。そのことについては今、校長会と協議を重ねていますし、特に中学校の校長会の中でも盛んに分析しておりますので、もう少しお時間をいただきたい。

○上田東一市長　ありがとうございました。それでは他に計画についてご意見、ご質問等あれば。それでは一応、計画についてはその通りこれ以上の質問については今回はないということよろしいでしょうか。

(なしの声)

(4) 報告事項 全国学力・学習状況調査の結果について

○上田東一市長 はい。ありがとうございます。次に移りたいと思います。全国学力・学習状況調査の結果について、説明をお願いいたします。

○菅野広紀小中学校課長 小中学校課長の菅野でございます。よろしく願いいたします。資料に基づき説明させていただきます。お手元の資料のうちNo.2、全国学力・学習状況調査、取扱注意のものであります。この結果については平成19年度から平成27年度まで結果を載せております。

今年度4月に行われた全国の学調の結果についてでありますけれども、小学校6年生については、国語、算数、理科、3教科のうち算数Bについては少し全国平均を下回っておりますけれども、その他は概ね良好な、全国を上回る成績でありました。中学校の3年生については国語、数学、理科ともに全国を下回る結果になっておりまして、先程から色々話があったところでございますけれども花巻市教育委員会としては昨年度末に策定いたしました学力向上アクションプランに基づきまして1点目は組織的な取り組み、そして2点目が授業改善の推進、3点目は家庭学習の充実ということについて取り組んでいるところでございます。

各学校ではこの結果を踏まえまして、各学校でも学力向上アクションプランを立てております。この結果を基にして、ある学校では授業改善について教師と生徒を主体とした授業形態を意識する授業改善に取り組むということ掲げている学校もありますし、特に3年生数学の少人数指導の実施を行うということや、定期テスト前や夏休み中の補習を実施するということで色々その後の補充指導、また来年度に向けた指導の充実に努めているところであります。

簡単でありますけれども全国の学力調査の結果についての報告であります。以上です。

○上田東一市長 これについてはさっきから話題になってはいますが、ご質問とかご意見とかございませんでしょうか。

○佐藤勝教育長 補足させていただきます。今日はラフな形で出したのですが、これまでの経過を見ると、以前は小学校が低くて中学校が高かったこともあったんですね。それがここ数年の中で小学校が授業改善に努めてきて中学校の方が逆に課題解決にちょっと不十分だったということが言えるかと思います。昨年の反省にたって今年度、学力向上のアクションプランを軌道に乗せているんですけれども、その強化というのが一番重要だと思っています。

今後、改善を図るとなっていくと、全て整理された訳ではないのですが、先程お話ししたように教育課程、いわゆる教育計画とか授業の作り方とかですね。そういった教育課程のフレームそのものについてしっかり見直しを図る。それからやはり授業力を向上させる。それから、教育課程の中では部活動とか課外活動についてももしっかり見直しすること

になりますけれども。そして何よりもご家庭と課題を共有することが非常に大きな条件だという風に思っております。

今後、国で進める方策も今までの学力観から全く違った方向に、全くでもないですが、思考とか表現とか生きる力を巡った、新しい21世紀型の能力を示していますので、そういったことを見据えながら、できるだけ早くこのことについてはしっかり対応策を練って参りたいと思います。講評につきましては、国の通知でも数値とかが一人歩きすることのないようにしっかり対応策、改善策を含めたうえでということの取扱でございますので、そういったことを併せて改善策をきちっと取り揃えてそのうえでお示しして参りたいなど思っております。

○上田東一市長 役重さん、何か無いですか。

○役重眞喜子委員 これは以前も教育委員会議でも話したものでなんですけど、今、菅野先生ちょっと省略して説明されたと思うのですが、詳しく見ていくと同じ学年が、例えば、平成19年の時の小学6年生が平成22年の中学校3年生と同一集団な訳ですね。

そうするとその子達がどういう風に、どこが伸びてどこが下がったかというようなことを見ていくことが大事なので単純にその年度年度で前年度より高かった低かったとかしゃべっても始まらないと思うのですが、全般的に言えるのは小学校は少人数で小さなクラスできめ細かく教ればある程度点数は上がってくる。

ただ、中学校になると学習の内容もそうですし、その子達の心理的発達状態もそうなんですけど、自分で目標を持って「よし、やるべ」って伸びていくというか、そこのモチベーションがないと、授業力もちろん大事なんですけれども、そこがないと中学生は伸びないなということをおは子供を育てながら実感したものです。なので、中学生に対して宿題をがりがり与えれば伸びるかということでもないし、部活を減らせば伸びるかと言えば、そうでもないかもしれないし、どういう風にモチベーションを与えていくか、結局、大人社会が頑張っている大学に入ったって就職口が無いかもしれないとか、非正規かもしれないとか、そういう中で子供たちも勉強する意味とか見失いがちですから、そこを花巻の教育はこういう風に目標を持たせてあげるんだという、そこがひとつのヒントかなと。

○照井善耕委員長 つい最近、中学生に「完璧に分かった問題は○」「たまたま当たったけど自信がないものは△」「間違っただけ何か分かりそうな気がするは△」「考えても全く手も足も出ないものは×」を付ける。「この○と△と×、最初にどれをやるか」と言ったら、×というのが結構多いんですよ。だから、やらなきゃいけない、出来るようにならなきゃいけないという思いはあるんだけど、まず自爆する。そういう発想なの。今、子供達の自己肯定感が喪失されているとか、かなり失敗を恐れるし、その0か100かの発想がある。そうじゃなくて、今自分の持ち合わせのもので確実にすることが大事じゃないかと思う。まず△でも先にしてみる、そうやっていくと子供達も何となくそういう風になっていく。

相対的に授業力、先生の力を上げることも必要だけど、大事なのは今日の前にいる子供

が何かにぶつかって、その時に関心を持つ人が周りにいて、子供とやり取りをして、「ここが分からないんだけど」と言える環境を作ってあげることが一番やりがいのある部分ではないかなと思うんです。そうすると担任の先生一人でももちろん大変だから、そこに花巻市として、退職された方々でもいいんだけど、ちょっと傍にいてあげて相談に乗ってあげるとか、それが子供も相談しやすいんじゃないかな。

○伊藤明子委員 一旦退職した人って、違った目で見れるからいいかもしれませんよね。

○上田東一市長 それは非常に良いと思うんですよね。ただ、やっぱり教育委員会、予算は我々の方で考えなくてはいけない中で、ふれあい教育で必要な人数を採用するというところでやっていますけど、それにプラスして照井先生がおっしゃったような部分がやれるものなのかどうかですね。

確かに良いアイデアなので、そんなに負担が無ければ、もし教育委員会でそういう計画を作るのであれば、当然検討の余地はあると思いますけれども、どのくらいの規模で必要なのかという、そこを考えていただく必要がありますよね。そのうえで予算化できるものなのかどうか考えていかなくちやならないという話だと思います。

○照井善耕委員長 小学校は比較的小人数で対応してもらっているんですね。中学校でいきなり自分でちゃんとやりなさいという感じなので、そういう意味でのギャップはあるかもしれない。

○上田東一市長 そういうことだともう学力なんですけどね、中学校で大規模な学校、例えば、クラスの人数の多い少ないで比例するような傾向はあるんでしょうかね。やっぱり1クラスが四十何人とかより三十何人の方が成績が良いとかそういうことはあるのでしょうか。

○佐藤勝教育長 必ずしもそんなことは無いと思うんですけれども。一人一人の掌握の仕方となると小規模の方が確かに目が行き届くということだと思います。ただ、大きい規模になると今後は競争するとか、そういう意識が出てくると、勉強もそういう方向に走っていくと子供達も飛躍的に伸びる傾向がありますね。

今お話しがあったように学校だけではなくて地域の力をお借りするという意味で来年度検討している事業が2か所ほどございまして。モデル的にやりながら広めていこうかなと考えてございますし、もうひとつは生涯学習との連携を図りながらコミュニティの持つ教育力、それから社会教育の中での学校への教育的な影響力、例えば家庭教育力の向上は多分その中に入ると思います。その辺の連携の仕方をもうちょっとやっていかないと、生涯学習だ学校教育だと言ったって基本的には教育の範疇でございますので、その辺が私達の努力がもう少し足りないのかと思います。地域の方々で見守ってくださる、あるいはコーディネートしたり、第三者的に助言してくださる体制を整えれば子供達はだいぶ変わるか

と思いますが、スペースの問題もありますので。

○上田東一市長 ちょっと話は変わりますけれども、教育長さんから教育課程と授業力の改善って風におっしゃっていましたが、逆に言うのですね、そこはまだ問題があるという意識だと思うんですね。

○佐藤勝教育長 そうですね。全体のフレームで例えば行事が多いとか、行事をやる時期が本当にそれでいいのだろうか。そういったことも精選をしたり、4月に入って色々な行事があって、そこであっふあっふしてしまうような状況よりは、しっかり学級を作ってもらったり、学習に向かう基本的な学習習慣を身に付けてもらう、そういった風なことが大事なのかなという気がします。

花巻の場合は、例えば、4月になると中学校では修学旅行があって、体育祭があって、生徒会組織が大きく変わってということがあって、それはそれで今までは成果はあった訳なのですが、社会の変化の中でそれが子供達に一番いいのだろうか、そういった疑問も無いわけではない。それから、本当に今の授業時数等でゆとりをもって評価したり、チェックしたり、個別指導をしたり、補充したりするようなゆとりはあるだろうか。子供達と本当に1人の子供を巡ってしっかり助言したり、認めてあげるゆとりがあるだろうか、そういった風な発想、見解からの考えです。

○上田東一市長 分かりました。他には何かございますでしょうか。無ければこれで次に移りたいと思いますけれども、私いつも言うんですけれども、菊池雄星君にしろ、大谷君にしろ、岸里君にしろ、全国的なレベルになっている子供達は増えている訳ですよ。畠山選手もそうですし、能力はあるんだと。学力も勉強ってことを考えると、先ほどの明治時代の話、江戸時代末期に頑張った人達が世界レベルの人達になっている訳ですよ。能力を持っているのはやっぱり伸ばしてやる義務は我々にはあるんじゃないかなと。確かに今、勉強ができれば社会人になって一流企業に入って一生安泰というものじゃないかもしれないけれども、例えばノーベル賞を取るための基礎学力を付ければノーベル賞を取る人はいるかもしれないし、色々な研究者になる人も。そういう、持って生まれてた能力を生かしてあげるための教育をきっちりするというのは、もっと花巻の子供達、能力を持っていると思うので伸ばすための努力は是非していきたいなという風に思います。

(5) 報告事項 花巻市のいじめの状況について

○上田東一市長 次に移ります。花巻市のいじめの状況について、事務局から説明をお願いいたします。

○菅野広紀小中学校課長 それでは、資料に基づき簡単に説明させていただきます。資料No.3になります。花巻市のいじめの状況についてであります。

平成26年度のいじめの件数はこの表のとおり、小学校は11件、中学校は9件、合計

20件であります。どのようないじめだったかと複数選択をして回答いただいた訳なのですが、一番多かったのは冷やかしやからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われることが一番多くて10件。次に多いのは、仲間外れ、集団による無視というのは6件。次は、軽くぶつかられたり、遊ぶふりをして叩かれたり蹴られたりする5件。ひどくぶつかられたり、たたかれたり、蹴られたりするというのが4件。蹴られたり、ぶつかられたりを合わせると9件ということになりますけれども、それぞれの項目毎と考えますと一番多いのは、悪口、嫌なことを言われるということで10件ということで一番多い項目でした。3番目には今年度に入って、どの位いじめ報告があったかということでありますけれども、9月末現在ではありますけれども、小学校からは3件、中学校からは5件報告をいただいております。いじめについては1学期中に校長会議等でいじめを認知した場合は報告するように話をしていましたので、軽いものでもいじめだと認知した場合は報告いただいて、その後どのような対応をしたかということも、ほとんどは児童生徒への指導をした、保護者への謝罪の機会を設定したとか、お互い納得したうえで収まっているという形でありませぬ。

それぞれの事案については今後もずっと見守っていく必要はありますけれども、各学校においてはアンテナを高くしてこのようないじめについて職員室内で情報共有できるように。一番は情報共有と組織的な対応ができるように各学校で努めているところでありますし、何かあったら教育委員会に報告をいただいて教育委員会も一緒になって考えているところであります。以上です。

○上田東一市長 ありがとうございます。よく言われるのは実は全部報告されていないんじゃないかという事が言われますけれども、その可能性はあるんでしょうかね。

○佐藤勝教育長 夏休みに県内で不幸な事件があったと、そういった認識についてということで県教委で校長先生を対象にした研修会を実施いたしまして、そこで、いじめ防止についての法の主旨というものをしっかりもう一回読み取って、基本的にどんな小さなことでもいじめと認定されるものについては全て報告して全体で対応していきましょうという共通理解になりました。

確かに認定基準を巡って前半期、スタートした頃については、はっきりとした共通見解でやっていなかったというのは、花巻だけではないけどあったと思います。ただ、今は数の問題ではなくてあったことについてはしっかりすぐ対応しましょうと、あるいは起こさないような防止の手立てを講じましょうということで取り組んではいます。確かに色んなご意見があって、隠しているんじゃないかということがあったのですが、決して隠している訳ではないということです。

○上田東一市長 そうすると、子供からそういう情報が入ってこなければ分からないわけで、その可能性というのは否定できないと思うんですけど、学校に報告された部分については全て報告されているという風な理解でよろしいんですね。

○佐藤勝教育長 学校としても迷うような場合もありますし、もしかしたら担任の先生が一人で抱えている場合もあります。出来るだけ私共の指導主事、相談員、全員で少しでも情報があつた場合は事実関係をはっきりして、こうしませんかということで対応しているという状況で、その総数というのはどれくらいでしたっけね。

○菅野広紀小中学校課長 いじめの他にも色々な相談事がありまして、今までで生徒支援が相談に係わつた部分については51ありますけれども、昨年度よりかなり多い数になっております。

○上田東一市長 この件についてあと何か。

○照井善耕委員長 こういう問題については人間関係の問題だから、どこかで抑えたってどこかで必ず出てくるものなんですね。だから、むしろこういう問題については、例えばAという子供とBという子供の間で何かあつた時に、私がそこに入って一対一の関係から3人の関係に持っていくとか、関係者になる。教育委員会も関係者のひとつとして係わつていく構えを皆で徹底していかないと。

さっきのところでも対応で気になる部分があるんです。謝罪の場面を設けたとか。そういうことではないんだよね。家庭同士の問題、あるいは子供と親の問題、そこに先生も入りますよ、入ってこれからも一緒にやっっていこうね。むしゃくしゃして悪口を言いたくなることもあるし、そういう風にどうやったらお互い気持ちよくなれるかこれからやっっていくという、そういう意味での持っていき方をしないと。

いじめの問題はどこに収まる、収まらないというか、収めようとする事自体無理かもしれないけれども、人間関係で色々揺れ動く部分は毎日生活していればあるんだと。そのことを前提にして皆で頑張っていくべ。担任の先生も一人で抱え込まないで、我々も関係者になるからというようなそういう方向でいかないと大変だと思います。無理して謝罪をさせるとその後にもた来るのでね。

○上田東一市長 確かにそうですね。謝罪って内心がそうであるという保証がないですからね。

○役重眞喜子委員 小学校と中学校を比べると、中学校に上がる時、極端に、家庭と担任の連絡ってほぼ0に近くなるんですよ。こういう事があつたということは直接の関係者はともかくとして、でも直接の関係者だけじゃないわけです。周りで気づいた子がいるとか、実は背景に色々あつて、そうするんですよね、保護者が何も知らずにいることがほとんどです。

もちろんプライバシーの関係が難しいところがあるんですけども、何かという時に先生、これどうなっているんだとか、うちの子はどうだとか大丈夫かとか、情報のやり取り

が出来るような関係を中学校の場合もう少し意識的に。どうすればいいのか私も分からないのですが、忙しいですからね先生は。だけど、部活とかスポ少の顧問や先生に対する濃密な関係と比べると、担任って3学期になっても「うちの担任って名前何だっけ」とそういう感じなんですよ。それはまずいんじゃないかなと思って、その辺りを中学校としても意識していく必要はあるかなと思います。

○照井善耕委員長 大人同士の親と担任との関係もそうだし、子供との関係もそうなんだよね。生徒と担任の関係も。例えば、親しくしていて情報をいっぱい掴んでいる先生が、他のトラブルった先生方から「何か知らないか」（と聞かれて）、生徒との関係の間で共有した情報をぼろっと漏らした途端に「先生も同じだったんだね」という言い方をされてね。だから、思春期になると子供自身が内面を自分なりに考えるし、人との関係の持ち方も。よっぽどそこを、このことについては俺とお前だけの情報にしているは何が起こるか分からないから、これは絶対相談した方がいいと思うとか、ちゃんと了解を得て提供して、そうやってネットワークを作りながら対応していくやり方をしていかないと、とにかくアンテナを高くしたのはいいけど、情報の出し方を間違うと一生涯の関係が潰れるくらいの事にもなったりするので、ここはやっぱり子供の問題だけど、大人の問題でもある。

○中村弘樹委員 今の中学校の先生は淡泊。忙しいのかもしれないですけど、昔だったら必ず学級懇談会の後に飲み会をしなればいけないというルールがあったんですね。その中で先生と親が良い関係だと何か問題があってもすぐ解決に持っていけるんです。うちの娘も中学校の時に学校行かないと2日間部屋に閉じこもった時があったんですけども、その時、担任の先生が良い先生だったので、すぐ改善してくれて3日目には学校に行けたんですけども、親との関係を作っていない先生だとこじれたままで行ってしまう傾向はあると思います。

○伊藤明子委員 生徒さんと先生との信頼ということですね。桜台だかはよく飲み会をすると聞いておりましたよ。うちは結構あるんだよって。だから結構、先生達とも話をするよって話をしていたので、飲み会＝悪いことじゃなくて、逆に良いことだなんていう風に思ったりすることもあるので大事なことなんですよ。きっと。

○照井善耕委員長 若葉小学校の50周年記念の祝賀会で愛助さんが若葉小学校じゃなくて酒場小学校だと。みんなでそうしてやってきたと。どこまでも理屈で行くのではなくて、ほどほどのところでまずこの辺にしてやるべとお互い収めながら来たのがすごく大きいと。地域の力とは案外そういうところだよという話がありました。

○伊藤明子委員 そうですよ。消防でも、消防団がまとまっているところは地域力ありますもんね。だから、地域を巻き込むことは大事だと。

○上田東一市長 飲めない人もいるから、あまりそればかりは言えないけど、確かにお酒を飲むと随分違いますよ。

○伊藤明子委員 でも飲めなくてもその場所に行くという方もいらっしゃいますからね。そうすると結構皆で色んな話をして、そっかそっかなんてありますっけね。

○役重眞喜子委員 小学校だとそういうことがクラス単位とか学年単位でありますけど、中学校に入ると部活単位になっちゃって、部活によっても月水金が練習のところもあれば火木土はスポ少で、要は皆が良いというような曜日が無い。だから、クラス単位でということはず0になっちゃうんですね。

○上田東一市長 京極純一先生が政治過程論でへべれけ共同体と言ったの覚えていない。すごくそれが頭であって、日本においてはこれ大事なんですって。大学の授業で言っていたんです。本当そうだなと思って。

○伊藤明子委員 本当に飲み会をやっている人の地域ってまとまっていますよね。奥さんたちも作ってやったりするから。皆それもまとまって。

○役重眞喜子委員 その後にこの教育大綱を。

(皆一斉にしゃべりだす)

○伊藤明子委員 確かにこの。お願いしたいことは子供達にお金をかけるということは、すごく未来性のあることですからね。子供にお金をかけることは大事なことだなと思うので、一番は未来にかけていただくことをお願いしたいなと思います。

○上田東一市長 ありがとうございます。

○伊藤明子委員 ちょっとひとつ。私、気になったのはパソコンや携帯で誹謗中傷や嫌なことをされるという。これ、今スマホでも色んなことが問題になってきているので、このところもきっちりこういうことがないように、例えば、ぱーっと散らばったものは、あれが嘘だったと言っても嘘が本当になってしまうことがあるので、そこら辺が非常に怖いなと思いますので、こういうことに関してきちっとやっていただきたいなと思います。

○上田東一市長 そういう部分についてはやっぱり学校で指導していただく必要はあるんでしょうね。

○佐藤勝教育長 そうですね。いわゆるリテラシーの問題ですけども、確かに、幼稚な使

い方をする場合もありますし、やってみて初めて間違いだったと気づく場合も実は子供達にはあるんですね。ですから、そういった場合は迅速な対応というのが一番だと思いますし、しっかり教えるということ。だから、親御さんも同じ対応してもらおうということですね。

(6) 報告事項 平成27年度岩手県中学校新人大会(前期)の結果について

○上田東一市長 はい。それでは次に移らせていただきます。平成27年度岩手県中学校新人大会(前期)の結果についてをお願いします。

○菅野広紀小中学校課長 それでは資料No.4をご覧ください。平成27年岩手県中学校新人大会(前期)の結果についてであります。これについては既に定例記者会見で公表済みのものでありますけれども、改めて報告するものであります。

10月17、18日に行われました、岩手県中学校新人大会の前期日程協議において、花巻市内の生徒が優秀な成績を収めましたのでお知らせいたします。特に男子野球では湯口中学校が初優勝。ソフトボール女子西南中学校、ハンドボール女子花巻中学校、バスケットボール男子石鳥谷中学校、陸上競技の400メートルリレーにおいて男女とも優勝しております。そのほか、個人競技においても陸上競技、体操、ソフトテニスなど多くの生徒が入賞を果たしております。今後も学業との両立を目指しながら来年の中学校総合体育大会に向けてますますの活躍を期待するところであります。

なお、後期日程については11月14、15日に開催される予定であります。以上、簡単ですが、参考として見ていただければと思います。

○上田東一市長 今の説明についてご質問ご意見等ございますでしょうか。

○照井善耕委員長 勝ったことを評価しながら、付加価値を付けるというか、それに相応しい生活の仕方なり、あるいはチームとして勝ったのであればチームの力はどのようなものか子供達に問い直して、再認識させる。昔から強い学校で、大会が終わった後にごみ拾いをやったりとか、そういう価値を、機運を逃さずやってあげるのがすごく大事だと思います。

○上田東一市長 花巻東の野球部は特にその点で全国的に評価が高いし、市民にも良い影響を与えていると思いますから、中学校も真似てほしいですね。

○伊藤明子委員 本当に良いんですよ。学校の雪かきもしてくれるし、きちっとした教育をいただいているとありがたく感謝しております。だから、就職も野球の選手をと言われるんです。

○上田東一市長 この前、トヨタ東日本の工場長さん達と一緒に飲んだんですけどもね、

やっぱり褒めていました。東高出身の選手は非常に活躍してもらっているし良いと。

○伊藤明子委員 みんな野球部ばかりお願いしますと言われるんです。就職もできれば野球部の選手をお願いしますと、ベンチ入りしていなくてもいいから野球部に籍を置いた子が来てくれるようにお願いしたいと言われるんですよ。

○照井善耕委員長 先日、駅伝の時に東高校で野球の練習をしてたんです。後輩がいて、今日は樹也がトイレ掃除だ、ピッチャーが当番の日だと言っていた。ちゃんとポジションで担当してね、引退してもそうやって、やっている。

○伊藤明子委員 3月31日までは東高の生徒ですから。例えばヨーカドーさんでおっしゃっていたんですけど、色んなところの生徒さんが来るけれど、東高の生徒は、終わったら次何すればいいですかと聞きます。他の生徒さんは指示を出すまで何も言ってこないの、できれば東高の生徒を使えないでしょうかと言われたんですよ。その子が良かったんでしょうけども。

○照井善耕委員長 身近にそういう人がいるっていうのはすごくいいこと。

○上田東一市長 市内にそういう生徒がいるということは他の子供達にもすごくいい影響を与えますよね。ありがとうございます。それでは、本日の議題は以上でございますので、議事を終了させていただきたいと思います。ありがとうございます。

(7) その他

○市村律教育部長 大変ありがとうございました。それでは、次第の4に移らせていただきます。次回、第3回の花巻市総合教育会議につきましては今日、たくさんいただいたご意見を踏まえまして、これから事務局の方で次回協議する内容、日程等も含めて検討いたしまして、それぞれ、市長さん、教育委員さんのご都合等をお聞きしながら調整したうえで決定して参りたいと思いますのでよろしく申し上げます。皆様から特によろしゅうございますか。

(なしの声)

(6) 閉会

○市村律教育部長 それでは以上をもちまして、第2回の花巻市の総合教育会議を閉会とさせていただきます。大変ありがとうございました。